

## 「女子中高生夏の学校 2022」参加レポート

市原 沙也

(近畿大学大学院農学研究科博士課程3年)

2022年8月7~8日に、女子中高生が理系の幅広い分野について知り、いろいろな人と交流できることを目的に「科学・技術・人との出会い 女子中高生 夏の学校」が開催されました。従来は現地開催のところ、感染症対策のため今年は3回目のオンライン開催となりました。この夏の学校はさまざまな理系の団体が参加しており、遺伝学会をはじめとした生命科学系から数物系の学会、企業など合計45団体が集まり、遺伝学会からは九州大学の野みずきさん、鷹野典子さん、名古屋大学の一柳健司さん、そして市原が参加しました。

1日目はキャリア講演や参加団体によるポスター発表、キャリア相談、2日目は実験・実習や学生企画などが行われ、私たちは1日目のポスター発表に参加しました。このポスター発表は、様々な分野の話を引きけるように、ということで参加される生徒は見て回るポスターを事前にランダムに指定されており、最後のセッションでは自由に好きな団体のポスターを見に行けるようでした。私たちはポスター発表で、遺伝学とは何か、遺伝情報はどのように継承されているのかについてざっくり説明したのちに、ロールモデルの一例として市原がなぜこの分野の研究をするようになったかの背景や、大学院で行った研究について説明をしました。遺伝学会のポスターにきてくれた生徒からは「生命現象も化学が関係しているんだ」と意外に思ったような感想をもらったほか、人間の雌雄の性染色体構成の違いから疾患の性差についての質問などもあり、参加している生徒の積極的な姿勢が印象的でした。なかには近隣の大学が開講している高校生むけの専門的なプログラムに参加し、非常に高度な研究をしている生徒もいました。その生徒の研究内容はちょうど野みずきさんの専門分野でしたので、セッションの後にさらにzoomで議論を続けたそうです。

今回の夏の学校で参加された生徒の興味を少しでもひけたのなら幸いですし、やる気のある中高生の姿をみて、若者の理系離れが進んでいると言われるものの、女性に関しては理系への興味がむしろ増えているのではないかと感じました。私たちもこのような若い人たちのやる気や興味をもっと活かせるような環境をつくらねばならないなと思いました。